

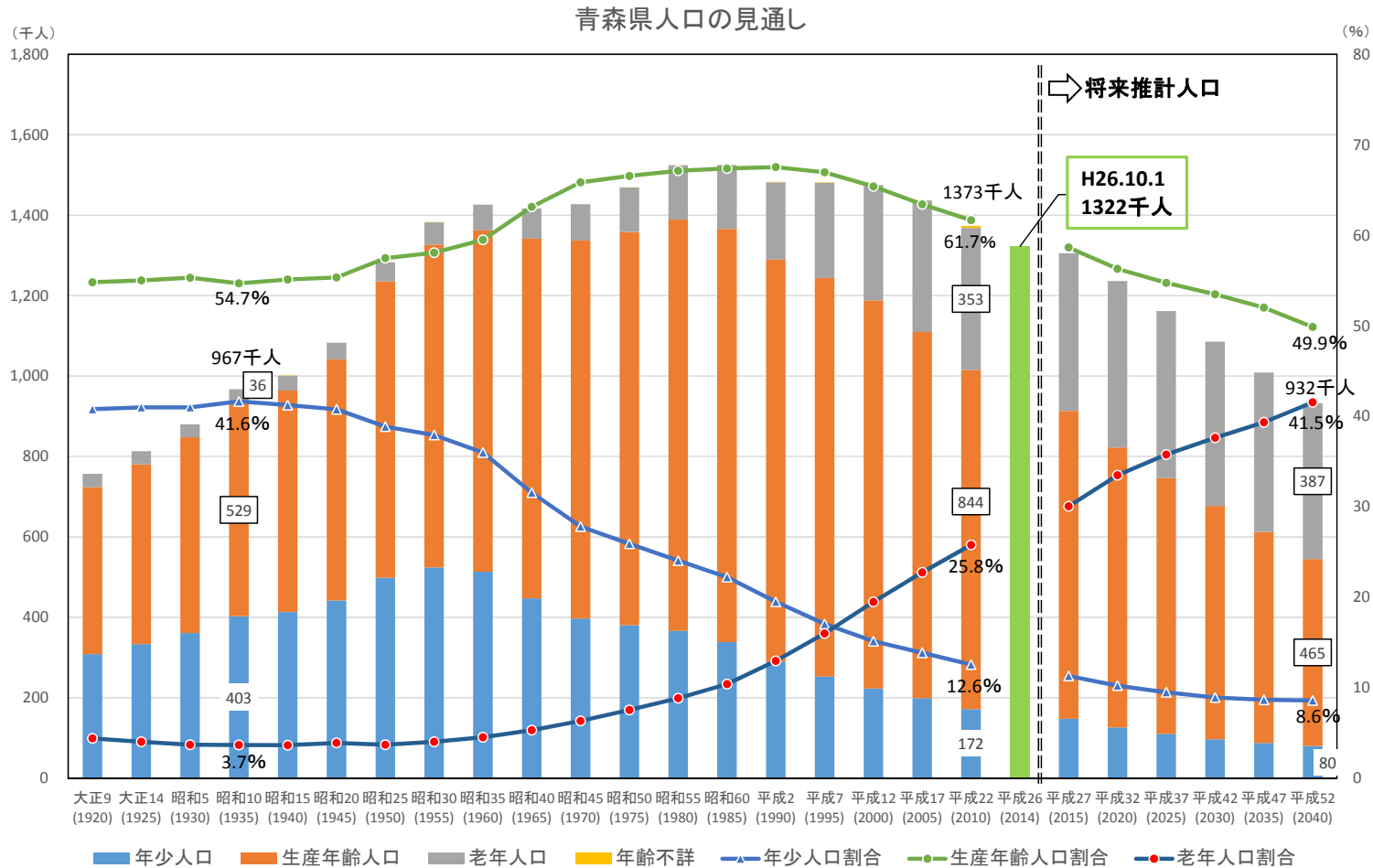
# 青森県における人口の動向について

## 【目次】

1. 県人口の推移と見通し
2. 人口増減の推移
3. 自然増減の推移
4. 合計特殊出生率と出産年齢女性人口の推移
5. 社会増減の推移
6. 社会増減の特徴(男女・年齢別)
7. 地域別転入出の状況

# 1. 県人口の推移と見通し

・本年10月1日現在の本県の推計人口は、132.2万人と前回国勢調査(H22年)の137.3万人から約5万人減少。現状の傾向が続けば、平成52年(2040年)には93.2万人まで減少すると推計されている。(昭和初期の水準)

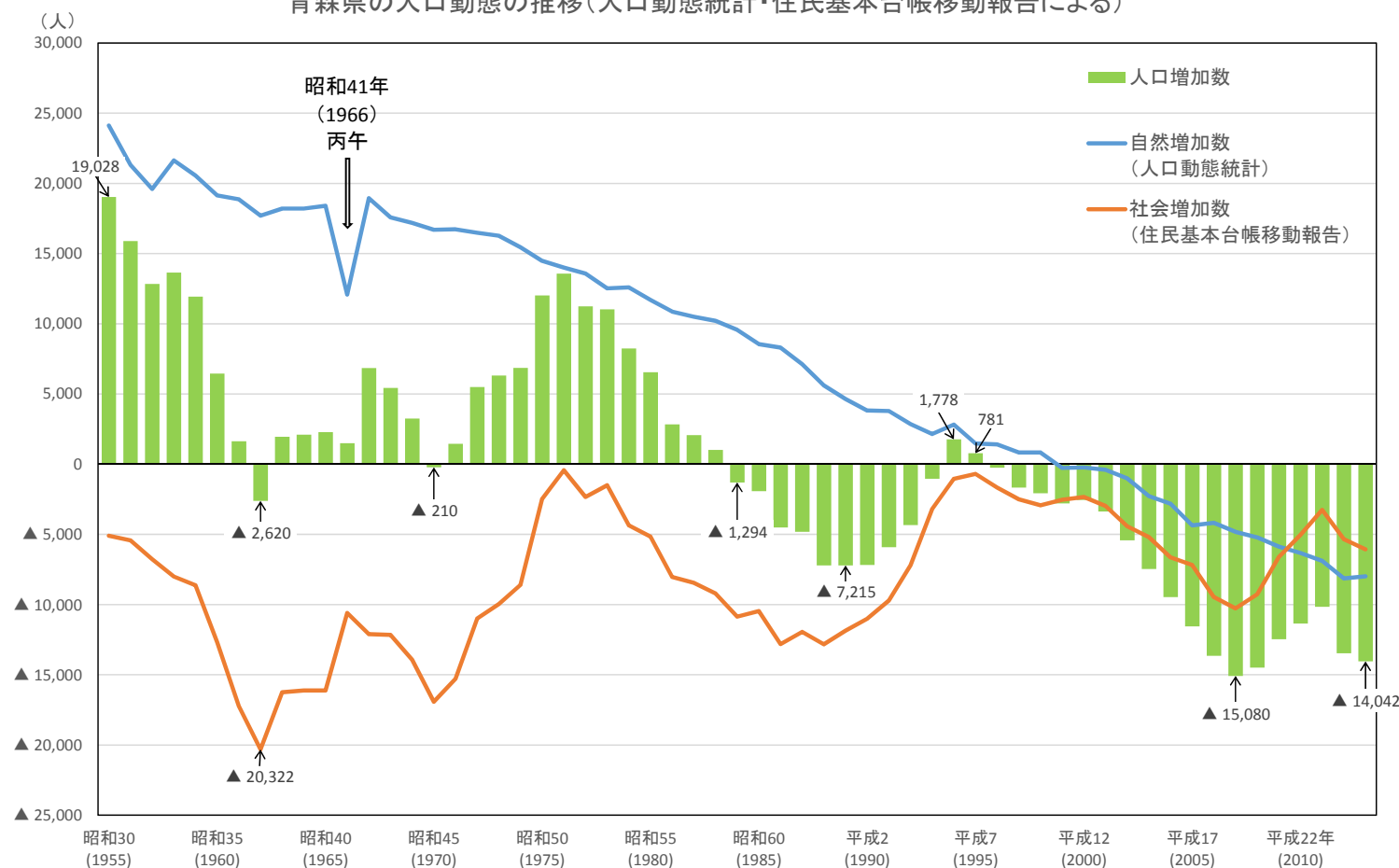


(備考)総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」、「青森県人口移動統計調査」により作成

## 2. 人口増減の推移

- ・本県の人口は、自然・社会動態の両面で減少局面に入っており、人口減少幅が拡大傾向にある。
- ・自然動態は少子・高齢化の進展から平成11(1999)年に減少に転じ、以降、減少幅が拡大している。
- ・社会動態は大きな変動があり、それが人口動態に大きな影響を及ぼしているが、転出超過が続いている。

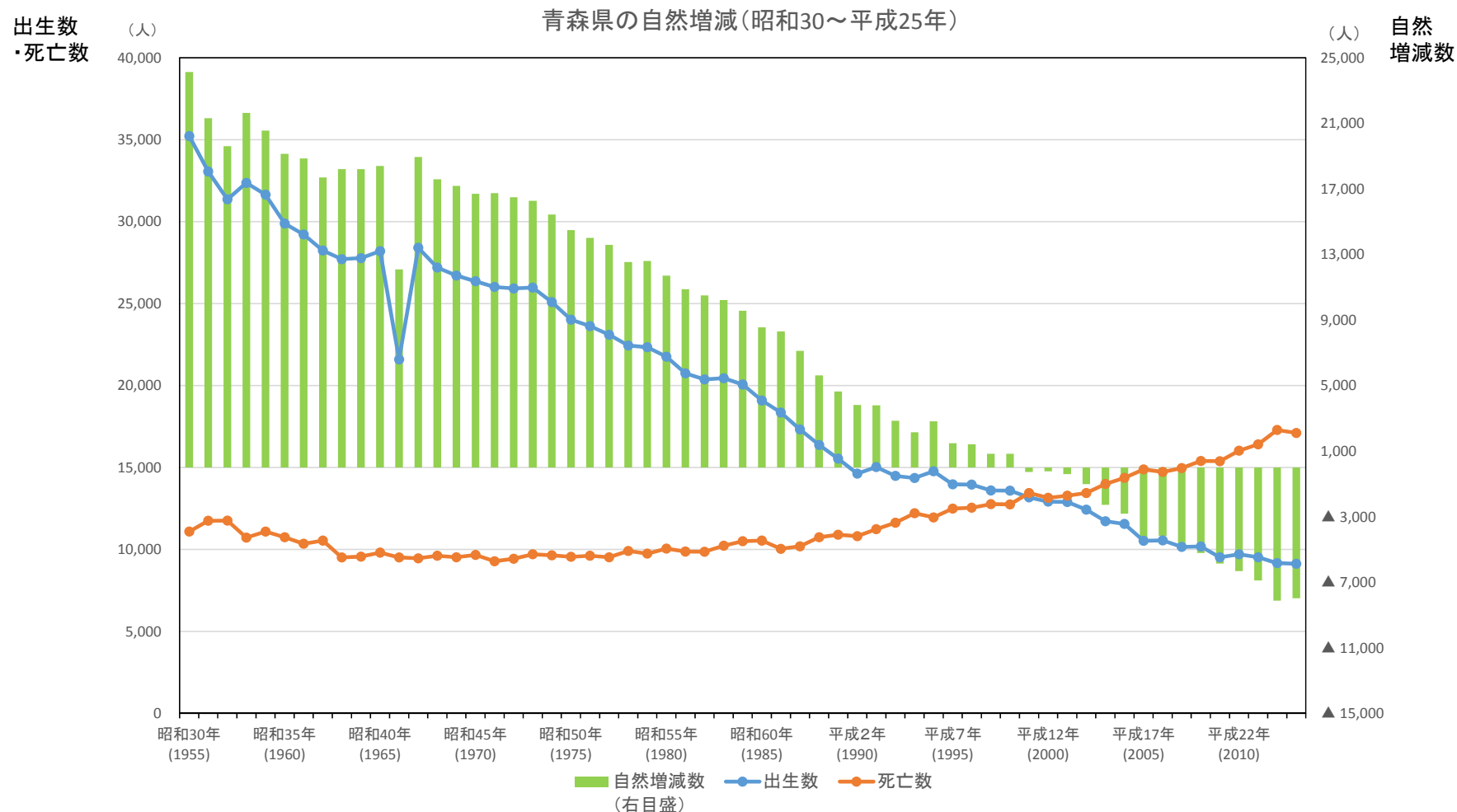
青森県の人口動態の推移(人口動態統計・住民基本台帳移動報告による)



(備考)総務省「住民基本台帳移動報告」、厚生労働省「人口動態統計」により作成

### 3. 自然増減の推移

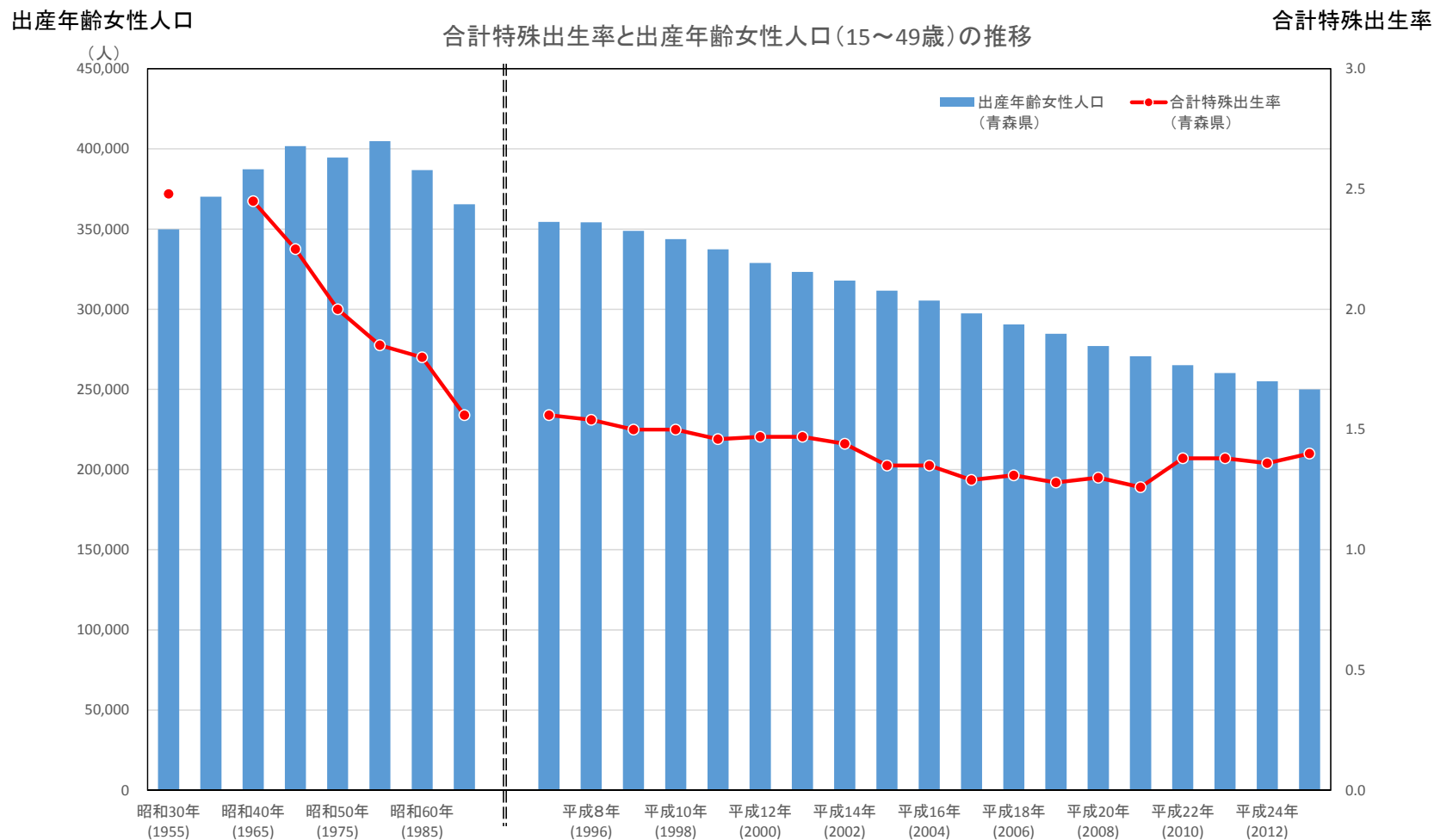
- ・青森県の出生数は減少傾向である一方、死亡数は増加傾向にある。このため、平成11年(1999年)には死亡数が出生数を上回り、自然減に転じた。
- ・その後、自然減少数は増加傾向にある。



(備考)厚生労働省「人口動態統計」により作成

## 4. 合計特殊出生率と出産年齢女性人口の推移

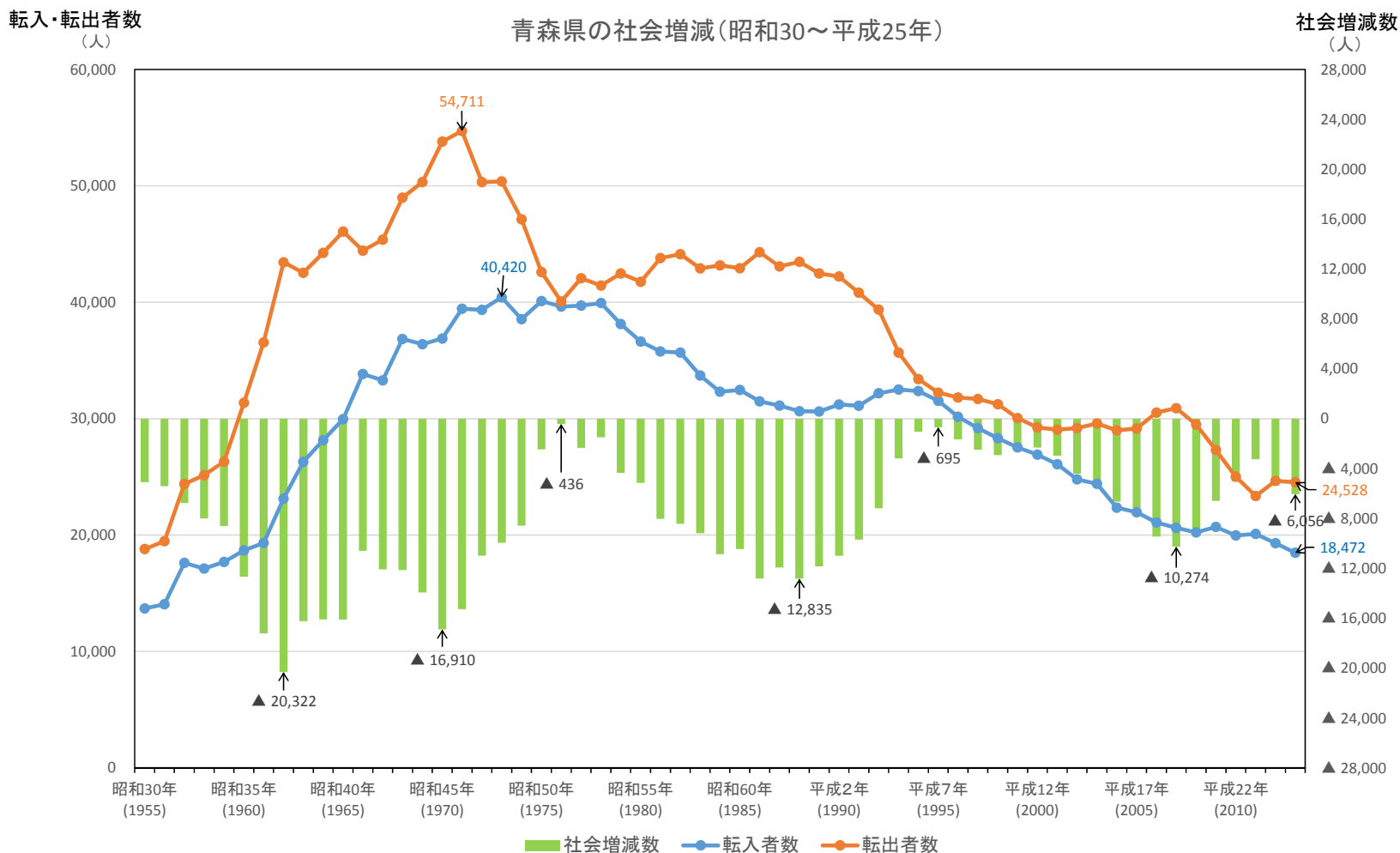
- ・出産年齢女性人口(15～49歳)は昭和55年(1980年)以降減少が続いており、平成25年(2013年)にはピークである昭和55年の約62%に減少している。
- ・合計特殊出生率は平成21年(2009年)まで減少が続いていたが、平成22年(2010年)以降、わずかに上昇している。



(備考)厚生労働省「人口動態統計」により作成

# 5. 社会増減の推移

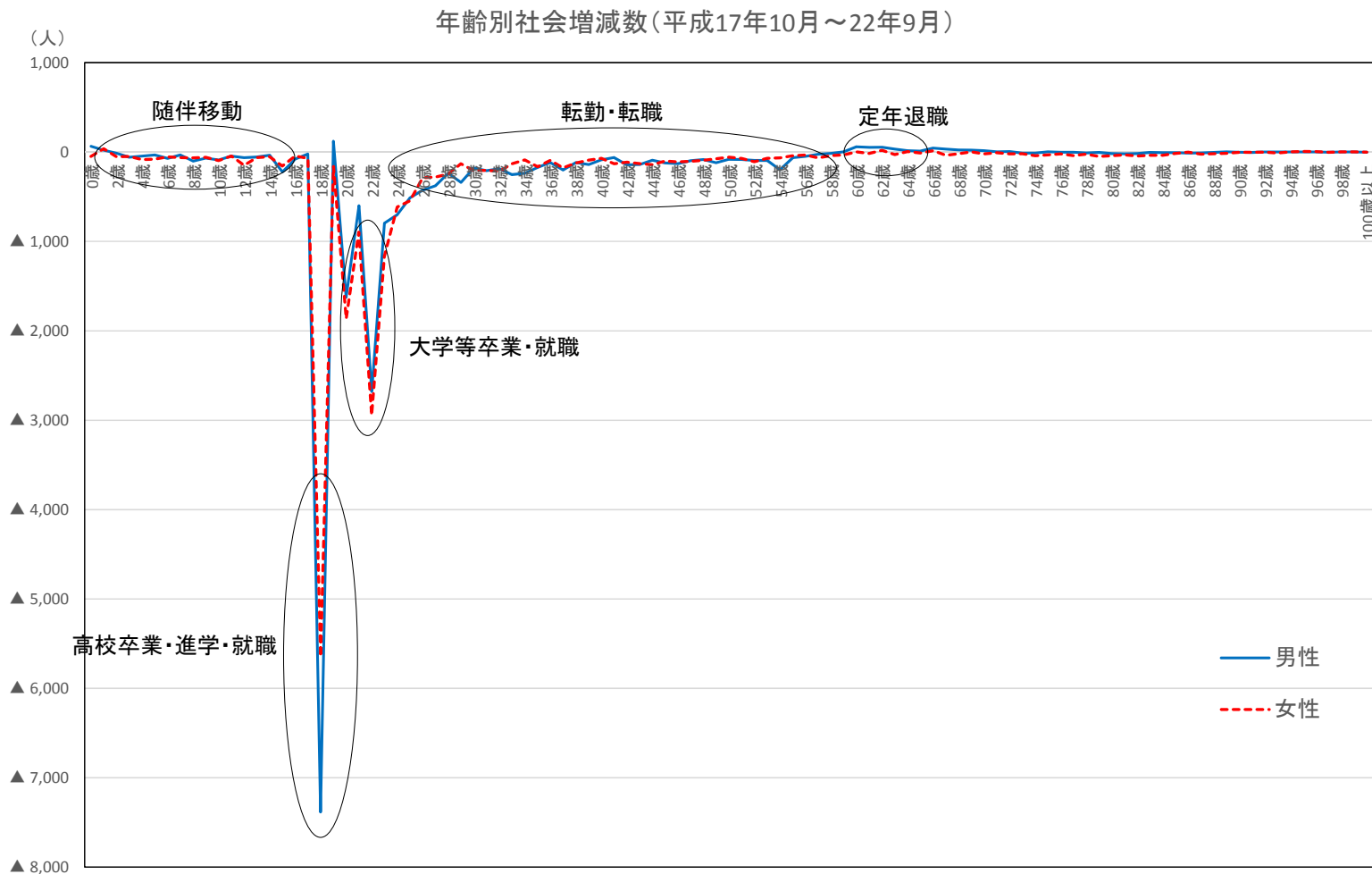
- ・昭和30年以降の青森県の社会増減には、1960～70年代、1980年代、2000年代に減少の山がある。
- ・青森県の社会増減は波があるものの、転出超過の状態が続いており、平成23年(2011)年以降、社会減少数が増加傾向にある。



(備考)総務省「住民基本台帳移動報告」により作成

## 6. 社会増減の特徴(男女・年齢別)

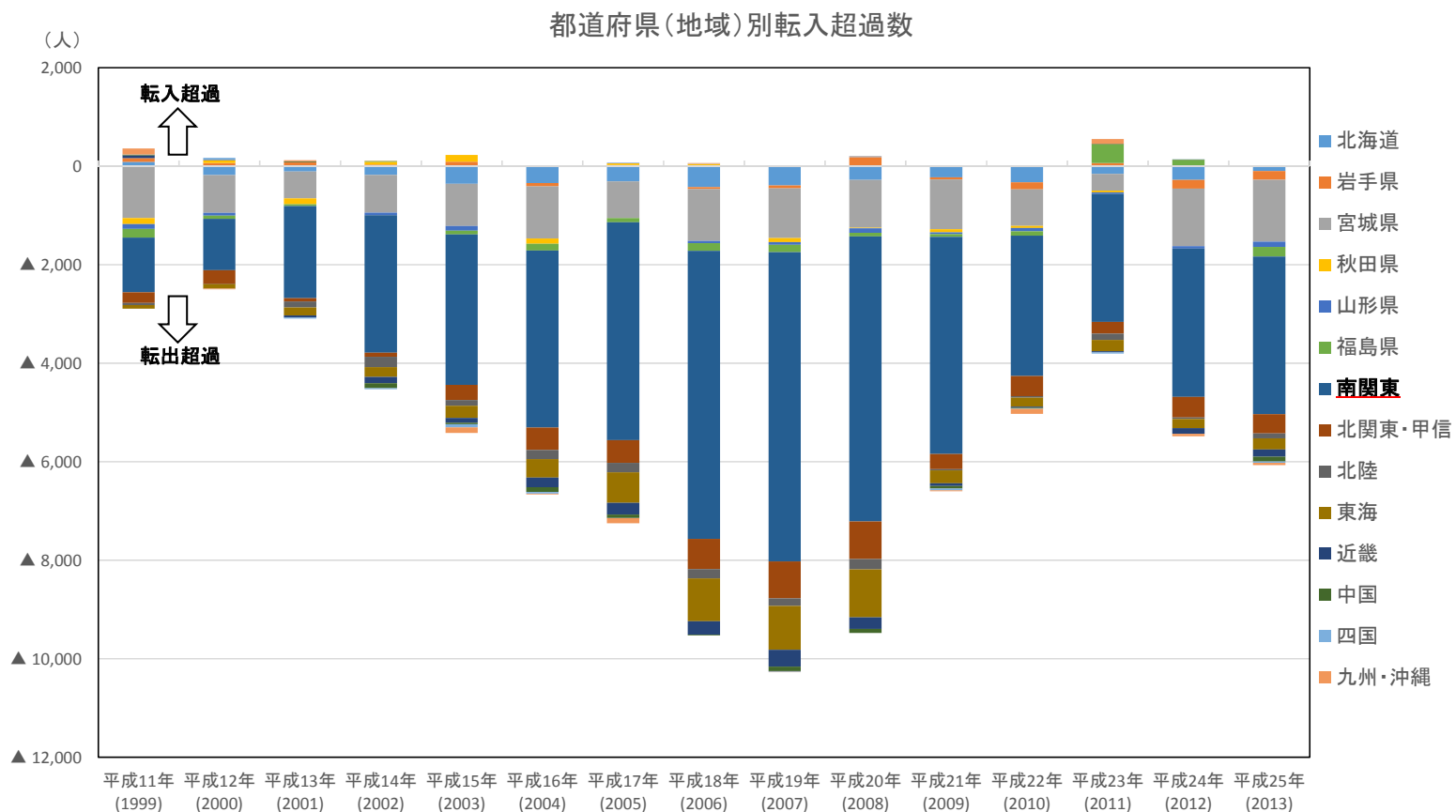
- ・社会増減はライフサイクルに応じて発生。18・20・22歳に社会減のピークがあり、特に18歳が顕著。
- ・20歳代後半～50歳代では転職や転勤による社会増減がみられ、その子世代の随伴移動を伴う。
- ・60歳代では、わずかであるが、定年退職に伴う社会増がみられる。



(備考)青森県人口移動統計調査により作成

# 7. 地域別転入出の状況

- ・都道府県(地域)別の平成11年(1999年)～25年(2013年)の転出超過数は、南関東(埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県)が約7割を占める。
- ・南関東への転出超過数の変動は、青森県の社会増減の変動の大きな要因となっている。



(注) 南関東: 埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県  
 北関東・甲信: 茨城県、栃木県、群馬県、山梨県、長野県  
 北陸: 新潟県、富山県、石川県、福井県  
 東海: 岐阜県、静岡県、愛知県、三重県

近畿: 滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県  
 中国: 鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県  
 四国: 徳島県、香川県、愛媛県、高知県  
 九州・沖縄: 福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

(備考) 総務省「住民基本台帳移動報告」により作成